

第9回 先端医療センター Monthly Lecture



多くの研究機関や関連企業が集積し、クラスターとしての体制が整いつつある神戸医療産業都市における次の課題は、意見交流の場を様々な形で作りだし、関係者の縦横の協力関係を構築し、最近の研究開発をめぐる大きな変化に対応する体制を作り上げることです。その一つの試みとして、優れた研究者による講演会を定期的開催し、交流、協力関係構築のきっかけを提供したいと考えております。

学会や交流会は盛んに行われており、最新のトピックスを伺う機会は豊富にあります。優れた研究者の一連の研究の歩みや領域全体の研究の流れを伺う機会は多くはありません。そこで、本レクチャーシリーズでは優れた研究者をお招きし、十分な時間を取って一連のストーリー、考え方、研究に対する思い入れをお話しいたします。

先端医療センター長 鍋島 陽一

日時・場所

2012年4月27日(金) 16:30 ~ 18:30

臨床研究情報センター (TRI) 第1研修室

※参加費は無料です。

■講師

中西 重忠先生
大阪バイオサイエンス研究所 所長



■演題

研究の創造性と感性、論理、方法論

■講演内容

生命現象を理解するためには化学的、物理的、形態学的な解析法がある。私の感性と発想を生かすには化学的手法が合っていると考え、医学部卒業後生化学の道に入った。大学院在学中に、生命現象を理解するには遺伝情報の解明が不可欠であると考え、米国に留学し大腸菌と入ファージの遺伝子の解析の研究を進めた。留学中1972年に遺伝子工学の原理が報告され本手法こそ生命現象をひも解く革命的な手法と認識し、帰国後(1974年)動物の遺伝子解析の研究を開始した。細胞間の情報伝達機構の解明に焦点を当て、ペプチド前駆体とペプチド受容体の解明、さらに脳機能の発現に必須のグルタミン酸受容体の研究を展開し本受容体群の解明と脳機能における役割を明らかにした。最近脳機能分子の解析という分子神経科学から脳機能発現の制御機構の解明というシステムズ神経科学の研究を進めている。本会ではいかなる発想と論理構築の基に約45年に渡る研究人生を楽しんで来たかをお話し出来ればと思う。

■お申込み

- ◎参加を希望される方は、事前にEメール (qanda@fbri.org) にて、お名前・ご所属・メールアドレスをお知らせ下さい。
- ◎当日参加の方も歓迎です。
- ◎事前申込をいただいた方には、今後の「先端医療センターMonthly Lecture」のご案内をはじめ、当財団からのシンポジウムや講演会等のご案内をお送りさせて頂きたく存じます。連絡不要の方はお手数ですが、その旨お知らせください。

■お問い合わせ先

Mail: qanda@fbri.org TEL: 078-306-0708

★次回 Monthly Lecture のご案内 →→→→→
2012年5月25日(金) 16:30-18:30 山本 雅之先生(東北大学大学院医学系研究科 教授)